

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0870200938		
法人名	株式会社東海荘		
事業所名	グループホーム東海荘ひだまり		
所在地	茨城県日立市鹿島町2-12-9		
自己評価作成日	平成21年12月11日	評価結果市町村受理日	平成22年6月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2		
訪問調査日	平成22年1月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市街地にあるので地域のイベントやお祭りや散歩に行きやすく、誕生会や各種施設内のイベントも行っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家族がホームの運営等に協力的であり、利用者は地域の一住民として当たり前の生活をしている。地域住民との交流は特に意識をすることなく、近隣の商店街、デパート、スーパーに出かけることにより、挨拶を交し合ったりすることにより深めている。交流センターで開催されるイベントに参加している。外部の刺激を大切と考え、外出する機会を多くしている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	週に2度のカンファレンスやミーティングなどで話し合いをしている	職員全員で考えた理念『家庭的環境のもと、その人らしい生活の支援を行う』をつくり、週2回のカンファレンスやミーティングで管理者、職員は再確認を行い、共有し日々のケアに努めていることが職員の聞き取りからも伺えた	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りやイベントに積極的に参加しなるべく外との交流を図っている	地域の祭や交流センターで開催されるイベントに参加し、交流に努めている。ボランティアの発表の場として提供している。(マジック、お茶会、ピアノ弾き語り) 保育園との交流を図りたくお願いに行ったが、実現には至っていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営会議や日々の外出や催し物参加などで外との交流を図っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行っている	三ヶ月毎に施設長、家族会代表、行政、民生委員、自治会長、青年団会長、利用者、近隣施設関係者の構成メンバーで開催している。会議内容は事前に通知し広く意見を聞くようにし、サービス向上に活かしている。職員、家族にも報告し共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営会議やその他何かあれば市に相談や指示を仰いだりしている	利用者の状況により、行政各担当課との連携を緊密にとり報告、話し合いを行っている。体験学習の場として提供する旨、行政、学校に伝えている。地域密着連絡協議会、社協主催研修会に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束に関した職員同士のミーティングは度々行っている。日常の中で拘束に当たる行為に関しては家族の同意及びカンファレンスで話し合いながら理解を深めている。	身体拘束の勉強会を開催し、禁止行為や弊害も職員は把握し、日々、拘束をしないケアに努めているが、やむをえない場合は家族の同意を得ている。玄関の施錠は行わないで利用者の様子から外出傾向を察知し、利用者に応じた対応で対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスや日々の申し送りなどで利用者に異変がないか確認しあっている		

茨城県 グループホーム東海荘ひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に家族になったケースがあるので相談に応じながら再度勉強なおせた		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や面会に来られた時疑問がないか確認をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営会議や意見箱の設置	運営推進会議、面会時に直接意見を聞くようにしている。意見の言いにくい利用者、家族に対しては意見箱の設置を説明、事務所前に第三者窓口の電話番号を明示している。年1-2回の家族会で意見を聞くように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスやミーティングなどで話し合いをしている	カンファレンス、ミーティングで職員の意見や提案を聞く機会を設け、ケアに反映しているが、日々のケアの中で感じた事や思ったことを聞き、活かしている。研修受講後は報告書をまとめ、職員と共有している。職員のストレス解消に食事会やカラオケに出かけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	カンファレンスやミーティング		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	時間や人員などの余裕があるときはなるべく参加できるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や集まりなどで交流を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する前に本人と面会や日々の生活で会話をしながら不安のない生活を行えるように心掛けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に確認している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何がよりよいのか必ず話をしてから契約するようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築くように洗濯物等があれば一緒にたたんだり等行うようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や施設内のイベント等家族も参加できるように声かけを行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時にまた来ていただけるようお話をしたりしている	電話や手紙で友人や身内との関係が途切れないよう支援している。友人の訪問があったり、なじみの場所(デパート、スーパー、神社、美容院、喫茶店)に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	朝の体操等職員と一緒に円満な状態を行えるように心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談等あればいつでもできるように退去時に話をしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り希望をきいているが、あくまでも団体生活なので限度はある	アセスメント、日々の会話、家族の想い等の中から個人個人にあった意向に努めている。どうしても希望に添えないときはきちんと話し、理解を得るようにしている。意思表示の困難な利用者に対して 職員同士で話し合い利用者の立場になって検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供表や家族など入居まえに確認している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中での会話や散歩など外出しなおどで		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や本人の希望や意見をきき納得したうえで行うようにしている	家族、利用者の意見や要望を聞き、カンファレンスで協議し、ケアプランを作成し、作成後は家族に報告していることが確認された。ケース記録とプランを連動させることにより、現況に応じたモニタリングを行い、新たなプランの作成につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスで介護日誌の記録や意見交換を行うようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	マニュアルにそらないよう柔軟にケアできるように心掛けている		

茨城県 グループホーム東海荘ひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その人の能力を把握し本人が自分から進んで楽しめるようにサポートしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を聞き適切な医療を受けられるようする	家族、利用者の希望に添った医療受診を支援している。24時間往診可能な医療機関と連携し、月2回の往診を受け、受診結果は副施設長、担当者が聞き、重要な内容は家族に電話連絡の上、記録に残していることが確認された。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日誌や申し送りで看護師との情報の共有をできるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師や看護師と情報の共有ができるように日々の状態やバイタルなど記録を医師に見せている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居する際に家族に話をし何がよりよいのか話し合いをしている	契約時に意思確認書の説明を行い、方針を確認しているが、家族の想いをその都度確認しながら医師と連携をとりながら支援に取り組んでいる。過去半年近く医療機関、行政、家族と連携をとりながら支援を行い、家族から感謝の意が聞けた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	口での申し送りや文面での理解はあるが訓練は中々行えていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や緊急時の連絡網とで意識づけをしている	消防署立会いの下自主防災訓練を年2回利用者と共に、利用者の行動の把握に努めている。(消火器使用方法、救急措置、緊急連絡網の確認) 地域との協力体制は出来ている。備蓄品は整備している。	夜間想定した避難訓練を行い、避難方法を職員が身につけることが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員のミーティングでは必ず接遇についての意識の再確認を重視し日々の生活の中でお互い気を付けている。	日々のケアを提供するに当たって職員同士が気をつけるようにしている。広報等の写真掲載については家族、利用者の同意を書面にて得ている。個人情報の書類関係の保管や、家族への報告等に関し注意を払い対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で希望などをきいて可能なかぎり対応するように心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り希望をきいているが、あくまでも団体生活なので限度はある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	誕生会などイベントの時など本人のきぼうがあれば対応するようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	声をかけて準備など手伝っていただけのものは一緒にやっている	利用者に希望を聞き献立を立てるようにしている。買出し、味見、テーブル拭き、配膳、下膳と一連の流れを職員と一緒にいき、利用者の意欲の向上に努めている。笑いがあり楽しい食事風景であった。利用者同士が協力し合っている風景があった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタルチェックや食事量など毎日記録をとっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	なるべく本人がおこなうように促し清潔を保てるようケアするようにしている		

茨城県 グループホーム東海荘ひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツをなるべく使はないようにトイレへの誘導を行っている	夜間ポータブルを使用している利用者はいるが、昼間は排泄パターンや表情から把握し、トイレへの誘導を行い自立に向けた支援を行っている。失禁時の対応には特に注意をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師と相談しながらヨーグルトや乳製品をとるようにし駄目な場合は下剤などを処方してもらうよう連携している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望はきくが団体生活なので難しい所がある	利用者の希望やタイミングに合わせた入浴支援を行っているが、菖蒲湯、ゆず湯や入浴剤によりリラックスタイムを提供している。拒否者には時間をかけて声掛けをしたり、清拭、足浴にて個々にそった支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	規則正しい生活を送れるように促し状態に応じて対応するようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	施設の看護師や薬局から週1度薬剤指導に来てもらうので情報を共有できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の趣味や好きなことや嫌いなことを把握しなるべくみんなが楽しめるように心掛けている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設で計画するほか希望があれば家族と相談し可能な限り出来るようにしている	毎日の散歩や買物のほか希望があれば家族と相談し協力しながら、外出支援を行い外気浴を行い、リフレッシュしてもらうようにしている。季節のイベントには外食をすることもあり、利用者は楽しみにしている。	

茨城県 グループホーム東海荘ひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日ごろの散歩時にお金を持たせ近くのお店でお菓子を買ったりできるようにしている。又週2回の食材の買い物に利用者を連れて一緒に買い物をしたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば出来る		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	余計なものは極力おらず分かりやすくなおかつ清潔に保つようになっている	利用者がゆっくりくつろげる共用の空間を心がけており、さりげなく置かれた草花等で季節を感じることが出来るよう工夫している。リビングに設置されたソファや食卓で思い思いの生活を楽んでいる様子が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング兼食堂にはソファを置き自由にテレビを見たり気の合った同士でおしゃべりしたり時には雑用をしたり出来るように小さなテーブルをおいてある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や本人の希望があれば相談に応じて持ち込めるようにしている	家族、利用者の想いの詰まったたんす、テレビ、テーブル、椅子、仏壇等を持ち込み、また家族の写真、目覚まし時計、趣味の小物等(外国の人形、ぬいぐるみ、草花)を配置し利用者にとって安心できる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行や入浴できるだけ自立できるようにこえかけをするように心掛けている		

目標達成計画

作成日：平成 22年 6月 18日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4-36-14	入居者一人ひとりの人格を尊重した接遇の質の維持向上をしたい。	全職員が入居者一人ひとりについて理解・尊重した接遇について意識的に確認しあう環境作り。	週2回のカンファレンスにおいて必要に応じて各ケースの具体的な接遇方法について話し合い情報を共有する。年に2回、アセスメント用紙(センター方式D-5)を用いて、職員は担当入居者とのかわりの点検を行う。接遇についての勉強会を行う。	12ヶ月
2	1の4の3	3~4カ月に1回の運営推進会議の実施である。会議の開催の機会を増やし活かしたい。	2カ月に1回の運営推進会議の実施を行いサービス向上に活かしていきたい。	年間計画を行い実施しやすい体制を整える。その都度、事業所内で取り組みたい議題についてホーム全体で考え会議に参加する。	12ヶ月
3	4-49-18	地域の特色や一人ひとりの希望を活かした外出支援を継続したい。	体力作り・気分転換の外出の他、買い物や催し物の参加等が一人でも多くできるような工夫を持って対応できる。	日頃の近所の散歩から季節の催し物まで、それぞれが参加しやすいよう場所の確認等情報収集を行う。参加に必要な協力等をご家族地域にも求めてゆく。	12ヶ月
4	1の13	職員が研修などを受ける研修が少ない	施設内研修についての取り組み。施設外研修について積極的に職員が参加できる体制づくりと各職員の研修参加意識の向上。	年に2回以上の施設内研修の企画実施。比較的参加しやすい市内で行われる施設外研修の情報収集し職員に参加をすすめる。施設内において新聞等に掲載される関連記事を随時スクラップして知識養成に役立たせる。	12ヶ月
5	1-2-(2)	近隣の保育園等に交流をお願いした際に拒まれて以来なかなか外部との交流が持たれていない。	地域との交流を深めて外部からのボランティアの積極的な協力を求めていく。	夏祭りやクリスマス会などのイベントを企画する等外部からの援助や多くの人との関わりを深める場を持つようにする。	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。